

在大阪・神戸米国総領事館ジェイソン・クーバス総領事のスピーチ
(日本語訳)

皆様、今晚は。丁寧なご紹介をありがとうございます。今宵、ご招待下さいました広島日米協会のリーダーの方々に感謝の意を表します。

この時期には、人々が集い、考え、感謝する理由がたくさんあります。そこで、まず、この季節の豊かで多様な伝統を祝うすべての方々のご多幸を祈りたいと思います。また、少し早いですが2024年が平和で豊かな年でありますように祈ります。

総領事として広島を訪れるのは今回が初めてですが、広島日米協会会員の皆様とお会いし、日米関係や私の優先事項、そしてこの地域における私たちの活動についてお話しできる機会をいただき、大変感謝しております。すでにご存知の方もいらっしゃると思いますが、在大阪・神戸米国総領事館は、23年前に私がアメリカの外交官として初めて赴任した場にあります。外交官としてのキャリアをスタートさせた場に戻れることを大変うれしく思っています。

あたかも世界が日本のこの地域に来ているかのように感じられる時に戻って来られて、私は幸運に感じます。

この一年、ここ広島で開催されたG7サミットを皮切りに、多くのG7関連イベントや会議が開催されるのを目の当たりにしました。そしてそれは、2025年大阪・関西万博に向けて、またそれ以降も続くでしょう。

私は比較的最近着任し、皆様と直接お話しする初めての機会ですので、総領事としての優先事項について少しお話ししたいと思います。在大阪・神戸総領事館は17府県を管轄し、私とスタッフは、こ

の注目すべき管轄区域の指導者および住民の皆様への積極的な働きかけを続けてまいります。

最初の1年間は、管区内の各府県を訪問することを優先しています。各府県において、地元の指導者、経済界、学生、市民団体の皆様と会談し、日米の絆を深め、共通の価値観を探求していきます。貿易と投資に関しては、米国は日本への最大の海外直接投資国であり、日本は米国への最大の投資国です。昨年、日米間の双方向物品貿易は最高を記録しました。

日本のこの地域は日米経済関係において重要な役割を果たしており、広島は米国の信頼できるパートナーです。広島はマツダとその多くのサプライヤーの本拠地であり、これらはすべて米国への重要な投資家であり、将来のモビリティのニーズを満たすために業界で協力しています。

また、マイクロンメモリージャパンの広島工場もあります。マイクロンは世界の半導体産業の強化に大きな役割を果たしている米国の技術リーダーです。マイクロンと広島大学は、「UPWARDS for the Future（半導体の人材育成と研究開発に関する未来に向けた日米大学間パートナーシップ）」プログラムで協力し、将来の課題を解決するための半導体の研究開発で相互協力を行っています。

G7 広島サミットの終盤でバイデン大統領とともに UPWARDS パートナーシップを立ち上げたことは、今年の日米関係にとって大きなハイライトとなりました。より広い地域に目を向け、日本の安全保障と地域の安定において中部日本が果たす重要な役割を考慮して、私は、キャンプ・デービッド首脳会談の勢いを機に、日米韓の結びつきを各地に推進していくつもりです。

広島市は韓国の大邱（テグ）広域市と姉妹都市提携を結んでいるこ

とから、この2都市は、「準国家的」外交と呼ぶ力を世界に示すことができる立場にあります。日米韓の良好な絆を育むために都市や州（府県）をどのように活用できるかについて、革新的なアイデアを歓迎いたします。

当総領事館および日本全国の領事館では、若い世代の取り組みを促進し、彼らにとって重要で前向きな変化を促すプラットフォームを提供するよう尽力しています。

Ambassador's Youth Council (AYC) 関西等の当総領事館主催の学生プログラムを通して、私はこの地域の才能豊かで活動的な若者たちと出会い、交流する機会を得ています。彼らは皆、コミュニティで活動しながら、気候変動、多様性とインクルージョン、メンタルヘルスへの意識などの重要な課題において自分たちが果たすべき役割について考えています。

私は広島日米協会に対し、次の世代が米国と広島の重要な関係を継承できるよう、日本の若きリーダー達とつながる機会を増やすよう奨励します。

そしてもちろん、総領事館の私の多様なチームは、学生交流、草の根のつながり、ビジネス関係など、あらゆるレベルでの新たな絆の創造が促進される一助となるよう、引き続き努力してまいります。

ここ広島では、私の着任直前に、広島平和記念公園とパールハーバー国立記念公園との姉妹公園協定が締結され、この関係において非常に重要な一歩が踏み出されました。この関係は、平和と和解に関する継続的な対話を促進し、たとえ想像を絶する破壊の余波があってもいかに大きな前進が可能であるかを、今日の若者や将来の世代に示す見本となるものであります。また、より平和な世界を実現するために自らが役割を果たすことができることを思い起こさせるもの

であります。

日米両国は過去 70 年以上にわたり、友好国として同盟国として、多くのことを成し遂げてきました。友好と草の根の努力によってこそ、日米両国民相互の尊重、感謝、および理解を深めることができるのです。ご清聴ありがとうございました。